



ICOI Study Club Japan 第1回近畿支部学術大会

基礎を踏まえたインプラント審美修復 ～若手ドクターへ送るメッセージ～

タイムテーブル

9:30	開場、受付開始
10:00	開会の挨拶
10:05	ICOIについて
10:30	三次正春先生(講演60分、質疑応答10分)
11:40	休憩
11:50	瀧野裕行先生(講演60分、質疑応答10分)
13:00	昼休憩
14:00	林 揚春先生(講演60分、質疑応答10分)
15:10	休憩
15:20	会員発表①
15:40	会員発表②
16:00	会員発表③
16:30	質疑応答等
16:40	閉会の辞

講師



歯は骨を作る
—Auto-Tooth Bone移植—
三次 正春 先生



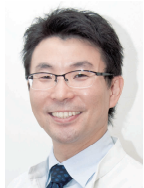
**審美領域における
インプラント治療戦略**
～トラブル症例を含めた
治療戦略の考察～
瀧野 裕行 先生



**時間軸を考慮した
インプラント処置**
林 揚春 先生

会員発表

■CEクレジットポイントの付与について 発表者：9ポイント / 共同演者：6ポイント / 参加者：3ポイント



田中 宏幸 先生
(ヒロデンタルクリニック)

演題 「アバットメントクラウンについての症例」

近年インプラント周囲炎の問題やインプラント上部構造破損時における修理対応が容易なことから、スクリー固定によるインプラント上部構造が見直されている。しかしながら、従来型のPFMによるスクリー固定型カスタムアバットメントクラウンではアクセスホール部周囲に金属が露出することから、審美性においてセメント固定型クラウンに大きく劣ってしまう。今回、審美的に優れるCAD/CAMを利用したスクリー固定アバットメントクラウンの症例を提示し、考察していきたい。



長尾 龍典 先生
(ながお歯科クリニック)

演題 「ガイドドサージェリー、ミニスクリーを用いた一症例」

サージカルガイドを用いた場合、硬組織に支持をおいた場合のずれは少ないが特に全顎だと粘膜支持になることが多くガイドのずれが手術の正否に大きく関与する。今回は、ミニスクリーを用いることでデンチャーとガイドを固定したケースを考察していきたい。



秋山 博道 先生
(御影歯科クリニック)

演題 「Sinus LiftおよびGBRを用いた全顎的治療症例」

現代のインプラント治療を行うにあたって骨造成のテクニックはもはや必須の技術となっている。ただし、適応症例の診断を見誤ると望んでいるような結果にはならない。私は、基準となる適応症分類や難易度分類をしっかりと行い、事前にリスクを把握する事が、インプラント治療を成功に導くために非常に重要であると考えている。そこで、今回はSinus LiftとGBRを用いた全顎的治療症例を通して、私が基準としている分類とその活用方法について紹介したいと思う。基準に即した治療というもの、その成果に対する安心感や治療成功率および患者満足度に大きな差をつけることがわかった。